

2 バラのホームユース用短茎切り花の多収技術

ねらいと成果

これまでバラの短茎切り花を多く収穫できる「一定長収穫法」(ひょうごの農業技術 No .108) とこの収穫法を応用し、間断なく収穫できるように工夫した「一定長・切り下げ収穫法」(ひょうごの農林水産技術 No .137) を報告した。今回は同化専用枝の折り曲げ角度を変えることにより、同化専用枝を採花母枝として利用できる整枝法について報告する。この整枝法を用いると、慣行に比べて切り花長は約 8 cm 短くなり、切り花本数は38%増加する。

内 容

バラのアーチング栽培では同化専用枝で生成された同化産物が株もとに転流することにより、株もとから太い切り花用のシュートを発生させる。この時、同化専用枝にもシュートが発生して開花に至るが、慣行ではつぼみの段階でこれを摘除して転流を促す。ここでは同化専用枝に発生したシュートを切り花として利用するため、その折り曲げ角度と切り花本数、形質の関係を検討した。

図 1 に示したように同化専用枝の折り曲げ角度を

慣行の150° に対して90° と120° の区を設定した。切り花本数は慣行の150° 折り曲げ区の12.8本/株 に対して120° 折り曲げ区では15.1本/株 (18%増)、90° 折り曲げ区では17.7本/株 (38%増) と折り曲げ角度が小さくなるほど増加し、59cm 以下の短茎切り花が多くなった(図 2)。切り花長は慣行の72.4cm に対して120° 折り曲げ区では66.5cm、90° 折り曲げ区では64.8cm と折り曲げ角度が小さくなるほど短茎化した(表)。折り曲げ角度を小さくすることによる量感値(ボリュームを示す指標)の減少程度は軽微で、商品性に問題ない。また、この整枝法では「一定長収穫法」でみられた花の大きさのわりに茎葉が大きくなりすぎる形態が改善された。

今後の課題

折り曲げ角度が小さいと通路幅が狭くなり、日常の管理作業への影響が懸念されるので、今後、折り曲げ角度を90° ~ 150° の範囲で簡易に調節できる装置の開発に取り組む予定である。

小山 佳彦(農業技セ・園芸部)
(問い合わせ先 電話: 0790 - 47 - 2424)

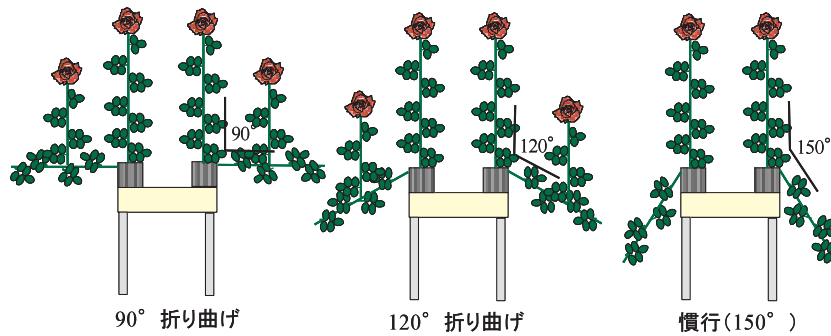


図 1 折り曲げ角度を変えた同化専用枝の採花母枝としての利用

表 同化専用枝の折り曲げ角度が切り花の形質と量感値に及ぼす影響

折り曲げ角度	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	量感値 (g/cm)
90°	64.8 ± 1.1	31.3 ± 0.8	0.48
120°	66.5 ± 1.2	32.4 ± 0.9	0.49
150° (慣行)	72.4 ± 1.4	36.2 ± 1.2	0.50

注) 数値は平均値 ± 標準誤差 (n = 128 ~ 177)

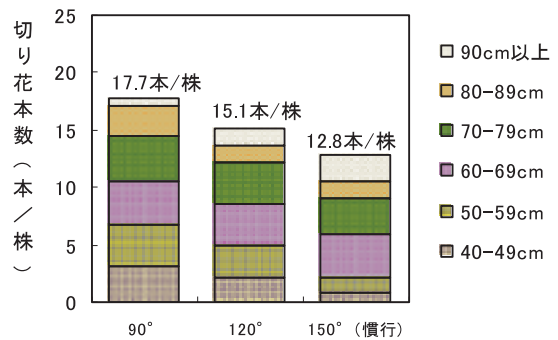


図 2 同化専用枝の折り曲げ角度が長さ別切り花本数の累計に及ぼす影響